



【会員名】株式会社セブン-イレブン・ジャパン

ウッド・チェンジ・アクション

令和6年度・木造店舗数 = 18店舗を開店
(九州5店、四国3店、本州4店、北海道6店)

- ・1店舗あたり木材平均使用量 = 27m³/店
- ・1店舗あたり国産材平均使用量 = 14m³/店
- ・1店舗あたり外国材平均使用量 = 13m³/店

令和7年度・木造店舗数 = 25店舗を予定

実施内容

- 2024年8月・農林水産省と「木材利用促進協定」の締結を実施
- 2024年8月・地域産材の活用を最大にアピールする象徴的な店舗「福岡ももち店」を開店
- 2024年11月・京都市の公園内に京都市産材を100%活用した「伏見北鍵谷公園店」を開店
- 2025年度・国産材比率を91%まで高めたテスト店舗を5店舗開店予定
(内、栃木県、新潟県では県産材100%使用した店舗を建設予定)

今後のチャレンジ

- ・国産材比率を91%まで高めたテスト店舗を実施

イメージ図



【木材利用促進月間等での取組】

行政（福岡市）マスコミ（RKB毎日）と連携した普及活動の実施【RKBカラフルフェス2024】での木育



課題・連携協力の可能性

標準工法（軽量鉄骨工法）と比較して経済合理性に課題。工法改善と共に新規提案に期待。

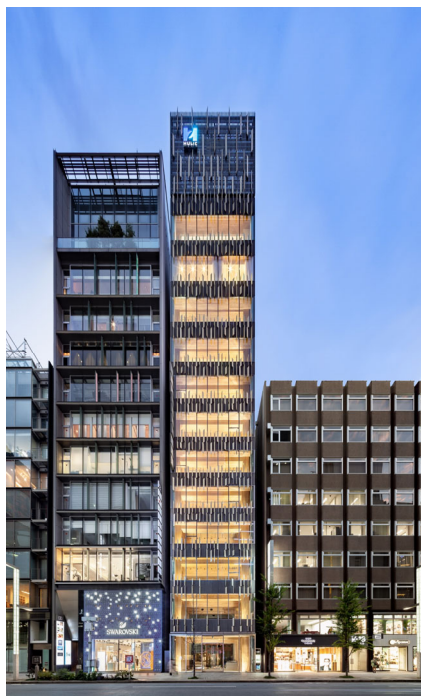
関連情報

株式会社セブン-イレブン・ジャパンホームページ : <https://www.sej.co.jp/company/>

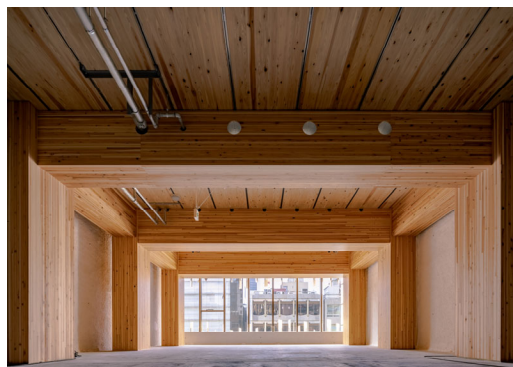


ウッド・チェンジ・アクション

HULIC &New GINZA 8



- 延床面積 2,459㎡
- 階数 地上12階/地下1階
- デザイン監修 隈研吾建築都市設計事務所
- 設計・施工 竹中工務店
- 竣工 2021年10月15日



- 国産材使用量 約300m³
- 炭素貯蔵量 約217t-Co2
- 使用した木材のもととなる立木と同量の伐採・植林・下刈り(5年間)を実施
- 耐火集成材の柱・梁、CLTの天井を、テナントは内装としてそのまま使用

今後のチャレンジ

- ・中高層非住宅建築や低層高齢者施設の木造化、木質化
 - ・・・木とRC・Sを適材適所に使用した木造化を推進することで経済的にも合理性の高い建築を設計
- ・国産材の積極的使用

課題・連携協力の可能性

- ・他企業との連携による、ローコストと躯体寸法の最小化を実現する耐火木材の開発

関連情報

ヒューリック株式会社ホームページ

<https://www.hulic.co.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

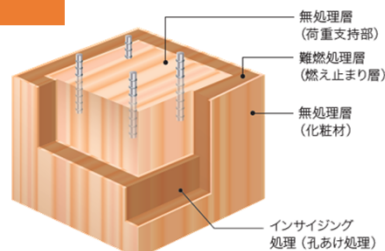
純木質耐火集成材
『サミットFR工法』のご提案

純木質耐火集成材は耐火構造でも「木」をあらわして使用することが可能な部材です。GIR接合であるサミットスーパーHR工法やサミットHR工法等と組み合わせることで、接合部も露出しない、木のぬくもりある空間を実現できます。間柱・小梁等の部分使いも可能。耐火木造建築の世界に新たな空間構成を提供します。

【中富良野町立なかふらの学園】（北海道空知郡中富良野町）

■ 延床面積：9579.20㎡

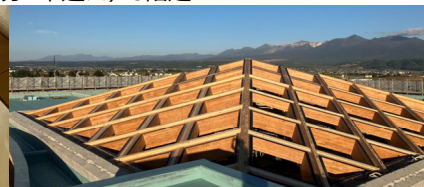
■ 構造・規模：鉄筋コンクリート造（アトリウム型プレイコート 屋根部分 木造※）3階建



柱イメージ図



梁



今後のチャレンジ

- ◆ 中・大規模建築 30年以上の経験を活かした技術開発と更なる品質の向上の促進、提案力の強化
- ◆ 構造部材をあらわして使用できる燃え代設計の普及啓発 及び 純木質耐火集成材の促進
- ◆ S/RC造との混構造や木造でも工法の使いわけなど、「木」をよりよく活かすための構造・工法・部材の啓発
- ◆ クライアントへの普及活動の継続

課題・連携協力の可能性

- ◆ 川上から川下（森林組合・製造工場・加工場 及び設計事務所・元請・クライアント）との連携強化
- ◆ GIR研究会を通じたGIR接合の整備及び品質・普及啓発活動の促進

関連情報

SMB建材(株) 木構造事業本部

<https://summit-hr.com/>





ウッド・チェンジ・アクション

①木造都市実現への取組 中高層木造実績



①岩谷産業神戸研修所
(2024年10月竣工)
(上層4層の外周柱梁が木造)

撮影:ヴィブラフォト 浅田美浩



②キャプションby Hyatt兜町東京
(2025年7月竣工) 撮影:エスエス
(3~12階の柱・梁の一部が木造)



②アトlassian・セントラル
地上39階、高さ186m
(2026年竣工予定)
(メガストラクチャー内に
各層4階建て木造)

②大林組ビジョンショーケース テーマ:「脱炭素」



ひらこう、脱炭素社会。



①木造木質の取組みを脱炭素の
一つと位置付けた展示



②Circular Timber Construction (木材利用推進)の
からくり模型

今後のチャレンジ

Circular Timber Construction (CTC) の取組み推進 (オープンCTCの推進)



顧客と連携した木を中心とした資源循環活動

課題・連携協力の可能性

- ①グループ会社スナダヤとの連携強化
- ②木材利用による生産性向上
- ③オープンCTCによる提供価値創造



ウッド・チェンジ・アクション

木造ビル実現による都市の木造化・木質化 「SANKEN御徒町BLD」 (2025年6月竣工)

運営 : 三絹(株)
 総合監修 : DESIGNWORKS合同会社
 設計・監理 : 佐藤千弘建築設計事務所
 ビル管理 : (株)ビルバンク
 構造設計・施工 : (株)シェルター
 地域地区 : 商業地域・防火地域
 建設地 : 東京都台東区上野
 規模 : 階数 地上3階／延床面積 106.28㎡
 構造 : 木造
 木材使用量 : 35m³／炭素貯蔵量 : 27t-CO₂
 ◆木質耐火部材「COOL WOOD」採用



今後のチャレンジ

「木造都市」の実現

木質耐火部材を活用した木造ビルの普及・拡大



世界最高高さ110m 地上24階建て
 純木造超高層ビル建築の技術を確立

[2025年7月15日
ニュースリリース](#)



課題・連携協力の可能性

・(一社)日本木造耐火建築協会を通じた 木造耐火技術の普及

2025年6月、国立研究開発法人 建築研究所
 監修『木質耐火部材を用いた 木造耐火建築物
 設計マニュアル 2025』発刊。
 隔月で[オンライン講習会](#)開催中。



・他企業との連携による木造技術開発

関連情報

【HP】<https://shelter.inc/>

【Facebook】[@shelter.fb](#)

【Instagram】[@shelter.ig](#)



ウッド・チェンジ・アクション

◆木質耐火部材 COOL WOOD 「EPD（環境製品宣言）」取得

構造耐力上主要な部分において、複数の建築素材を組み合わせた複合体のEPD取得は、建築物のCO₂排出量を可視化し、エンボディドカーボン削減に向けた具体的な取り組みを可能とするとともに、LCAの算定・評価を促進するための重要な指標となります。

さらに、EPD取得製品の使用が加点要素となるグリーンビルディング（環境配慮型建築）での採用や、海外市場での需要拡大も期待されます。



対象製品：COOL WOOD
(1時間耐火仕様・柱)
登録番号：HUB-3377
GHG排出量：2,82E+02kgCO₂e



対象製品：COOL WOOD
(2時間耐火仕様・柱)
登録番号：HUB-3440
GHG排出量：2,88E+02kgCO₂e

今後のチャレンジ

- ◆木質耐火部材を活用した木造ビルの普及・拡大
- ◆プラチナ森林産業イニシアティブ（三菱総合研究所他）と連携した「木造都市（まちの木造化・木質化）の展開」

<https://platinum-network.jp/forest-industry-initiative/>

課題・連携協力の可能性

- ・（一社）日本木造耐火建築協会を通じた木造耐火技術の普及
2025年6月、国立研究開発法人建築研究所監修『木質耐火部材を用いた 木造耐火建築物設計マニュアル 2025』発刊。
隔月でオンライン講習会開催中。
- ・他企業との連携による木造技術開発



関連情報

【2025年9月18日 ニュースリリース】木質耐火部材 COOL WOOD「EPD（環境製品宣言）」取得
<https://shelter.inc/news/coolwood-epd>



ウッド・チェンジ・アクション

◆ 中大規模木造建築の普及に向けた設計・施工事例

＜木造混構造 6 階建て 社宅＞ 2025年6月5日ニュースリリース



物件名：みどりのの庭
 所在地：茨城県つくば市
 構造：RC造＋木造（耐火）
 階数：地上6階建
 延床面積：2,124.07m²
 着工：2024年5月
 竣工：2025年5月
 木材利用量：322m³

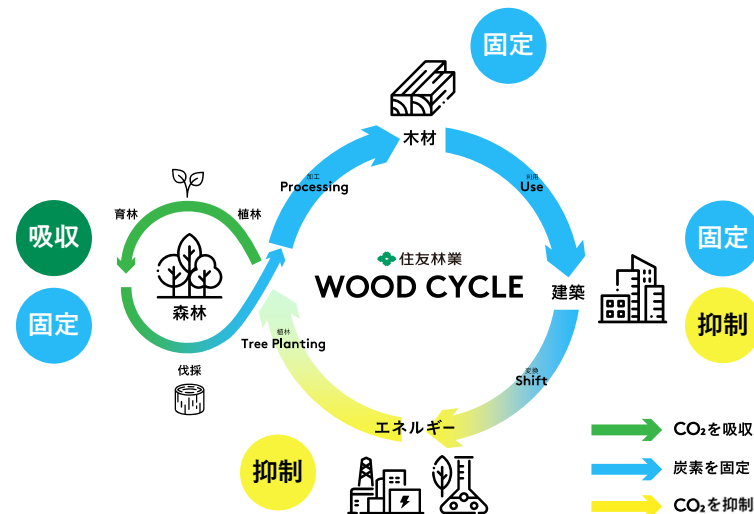
＜純木造 3 階建て 学生寮＞ 2025年2月25日ニュースリリース



物件名：東京農業大学青雲寮
 所在地：東京都世田谷区
 構造：木造（準耐火）
 階数：地上3階建
 延床面積：1,250.39m²
 解体着工：2024年1月
 竣工：2025年1月
 木材利用量：約300m³

今後のチャレンジ

ウッドサイクルを回して、吸収・固定・抑制の3つのアプローチで「脱炭素インパクト」を作り出す



課題・連携協力の可能性

建物のCO2を見える化するソフトウェア

『One Click LCA』の販売・算定受託事業と併せ、建材の環境認証ラベル『EPD』の取得推進事業も進めています



関連情報

Mission TREEING 2030
 ニュースリリース2025
 One Click LCA

https://sfc.jp/information/ir/library/statements/pdf/2024-4q_gaiyo_01.pdf
<https://sfc.jp/information/news/news2025.html>
<https://sfc.jp/treecycle/value/oneclicklca.html>



ウッド・チェンジ・アクション

竹中2025アクション①

続々と木造・木質建築プロジェクトが実現しています



大阪・関西万博 大屋根（リング）パッシブタウン第5期街区 トヨタモビリティ新大阪寝屋川店

竹中2025アクション②

キノマチウェブでまちと森をつなげる情報を発信しています

キノマチウェブ



【記事カテゴリー】

「Japan Wood Label」
「Wood Carbon Label」
“木”のサーキュラーエコノミー
最新木情報・川下の動き

今後のチャレンジ

中大規模建築での木材利用で森林グランドサイクル®の維持・拡大を目指します

今年もキノマチ大会議開催

～リジェネラティブ：森と社会を再生する建築を考える二日間～



2025年11月20日～21日@奈良井
1日目：身体知の獲得
2日目：知識共有と議論

課題・連携協力の可能性

【塩尻市奈良井区における森づくり】
塩尻市と当社の地域連携協定締結（2020年）の関係性を深化
今後も育樹、植林を継続し、建物への活用と持続可能な森づくりを推進



植樹イベント
(2025年5月31日)開催

関連情報

竹中工務店の木造・木質建築 : <https://www.takenaka.co.jp/enviro/environment/>
キノマチウェブ : <https://kinomachi.jp/>
キノマチラボ (Instagram) : <https://www.instagram.com/kinomachilab/>



東急建設株式会社

ウッド・チェンジ・アクション 2025年

①施工実績



用途：複合施設（事務所・店舗）
構造：RC造+木造
竣工：2025



用途：教育施設
構造：木造
竣工：2024（木造棟）

②木材利用普及活動



← 非住宅木造建築フェア2025
2025年6月4・5・6日
東京ビッグサイトにて開催



モクタス n°7 →
2025年5月に発行

③モクタスキューブ(可搬型木造建物)

可搬型木造建物「モクタスキューブ」を、震災などの有事の際、被災者の応急仮設住宅として速やかに供給するため、自社建設現場の作業所仮設事務所等として導入し備蓄することを決定。

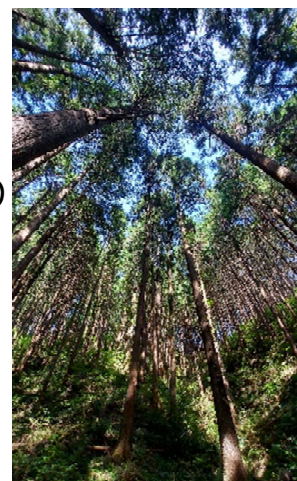


今後のチャレンジ

フォレストアクション

2025年6月より、「スマート林業」の実証を東京都あきる野市で開始。

【建設業の知見を活かし、
林業分野への進出を目指す。】



今後の展望

実証の成果を踏まえ、事業エリアを拡大予定。



課題・連携協力の可能性

- ・「スマート林業」実証を踏まえ、山と都市をつなぐサプライチェーンの構築。
- ・森林環境教育等の企画実施。

関連情報

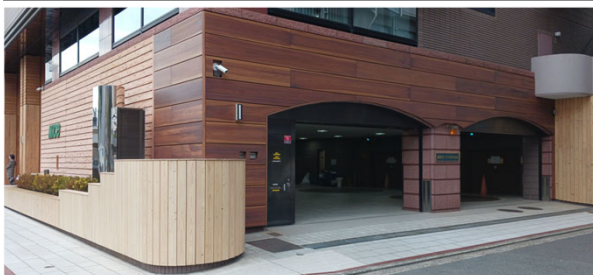
モクタス（木造・木質建築）ホームページ <https://www.tokyu-cnst.co.jp/moctas/>
東急建設(株)ホームページ <https://www.tokyu-cnst.co.jp/>





ウッド・チェンジ・アクション

建築領域：本社外装木質化二期工事



本社外装での木質化実証実験。スギ・ヒノキ・アカマツ圧密材を用いたウッドカバー工法により外装木質化。

産業資材領域：トラック床板の国産材への代替



従来使われていた南洋材から国産材への代替。グリーンウッド使用促進、軽量化による燃費改善、積載量の増加に貢献する。

暮らしの領域：家具・木製品類



高い形状安定性を持ちながらスギの軽さ・温もりを維持した製品類。

今後のチャレンジ

- 建築領域_外装：ウッドカバー工法の普及活動
- 産業資材領域_トラック：車体架装メーカー・貼り換え業者へのPR
- 暮らしの領域：住宅設備機器メーカー、オフィス家具メーカーとの開発強化

【木材利用促進月間等での取組】

- 9月3日-4日 木と暮らしの博覧会 開催
- 9月6日-11月25日 OZONEカタログライブラリー登録企業紹介展示
- 11月20日-21日 多摩産材利用拡大フェア

課題・連携協力の可能性

生産から販売までを担う、ご当地Gywood®のサプライチェーンの構築。

関連情報

表層圧密テクノロジー Gywood® : <https://gywood-muku.jp/>
 大径木高耐久赤身材 ObiRED® : <https://obired.jp/>
 ナイス株式会社 ホームページ : <https://www.nice.co.jp/>



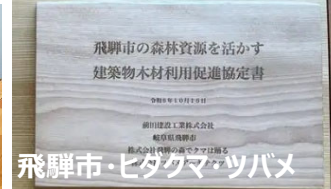
Gywood®HP



前田建設工業株式会社

ウッド・チェンジ・アクション

■ 木のプロジェクトが広がっています ■ 木材利用促進協定を締結しました



■ WC協議会での試設計を 展示会で紹介しました



■ 飛騨との連携協定の取り組みが 始まりました



今後のチャレンジ

昨年、帝人株式会社と開発した剛接合技術や、飛騨市の広葉樹を使った内装提案、さらに設計施工全物件でホールライフカーボン算出する取り組みなどを複合的に活かしながら、木材利用の普及・拡大を目指します。

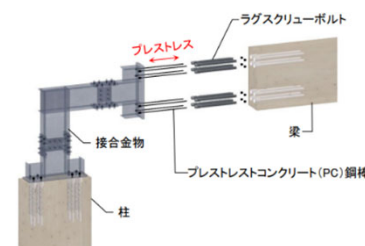


図-1 柱梁接合部の概要

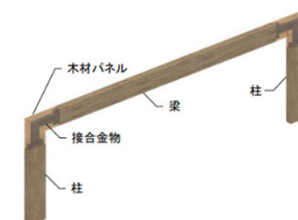


図-2 本工法を用いたラーメン構造の概要

課題・連携協力の可能性

飛騨市との連携協定に基づき、森林のめぐみを活かし、地域の持つ環境価値と、都市の持つ経済価値を循環させることで相互の課題解決につなげる取り組みを推進します。

関連情報



木で建ててみよう 前田建設×木

木で建ててみよう | 前田建設×木 (kidetatetemiyou.com)



私たちは木で建てることを通じて多面的に社会とかわり、木に寄り添いながら新しい価値を作り出していきたいと考えています

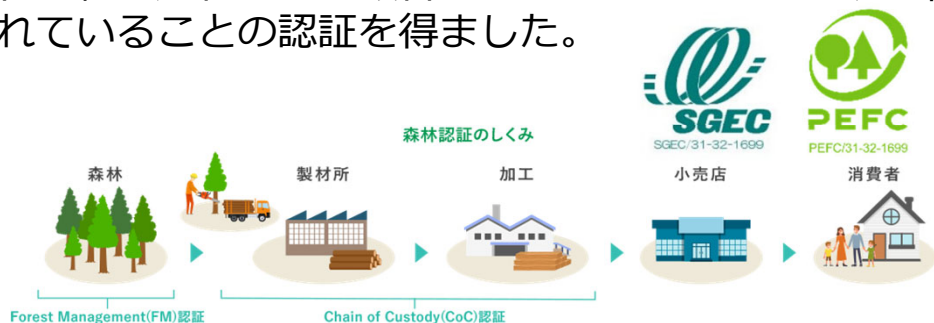


三井ホーム株式会社

ウッド・チェンジ・アクション

◆森林認証「SGEC-COC認証」を取得

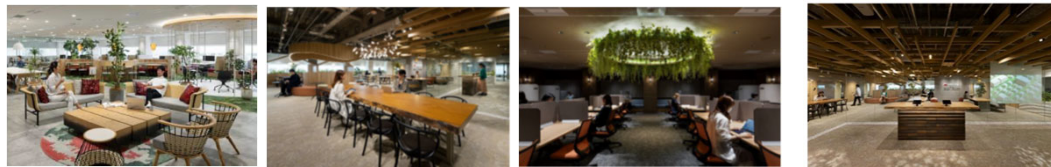
森林から伐採された木材（FM認証材）が、加工・流通の過程を経て建物として顧客へ引渡されるまで、適切に管理されていることの認証を得ました。



◆「日経ニューオフィス推進賞」を受賞

三井ホームグループが集約する新オフィス（江東区新木場・2024年5月入居）が、第38回日経ニューオフィス賞にて「ニューオフィス推進賞」を受賞しました。

「木」を多様に活かしたデザインや空間の工夫で、組織の垣根を越えたコミュニケーションと連携を目指します。



今後のチャレンジ

◆「SE工法」の展開

株式会社エヌ・シー・エヌと連携しSE構法(木造)を活用して、耐震性に優れ、自由度の高い空間を実現する選択肢を増やし、多様な建築物のさらなる木造化を推進します。

◆CLT箱型ユニット交番を施工

北海道では8例目、三井ホームでは初となる構造躯体であるCLTセルユニットで構成された交番を北海道にて初めて施工します。

【木材利用促進月間等での取組】

◆北海道旭川市美瑛にて植林研修を実施。

課題・連携協力の可能性

◆企業連携型SDGs 教育施設「くまもとSDGs ミライパーク」にブース出展

◆世田谷区の築250年以上の歴史的建造物「旧用賀名主邸」を保存・再生。経年優化的街づくりに貢献。

関連情報

- ・2025.2.4 ニュースリリース 『三井ホーム国際的な森林認証を取得』
- ・2025.7.22 ニュースリリース 『三井不動産グループが「木の魅力」を体験できるブースをオープン』
- ・2025.8.12 ニュースリリース 『第38回日経ニューオフィス賞 ニューオフィス推進賞を受賞』



ウッド・チェンジ・アクション

国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビル着工

「日本橋に森をつくる」というコンセプトのもと、
木造オフィスビルならではの新たな価値創造に挑戦



- ・ 地上18階建、高さ84m、延床面積約28,000㎡の**国内最大・最高層**となる木造賃貸オフィスビル
- ・ **国内初適用となる木造・耐火技術を多数導入し、1,100㎡超**の国産木材を構造材に使用
- ・ 同規模の一般的な鉄骨造オフィスビルと比較して、**建築時CO₂排出量約30%の削減効果**を想定
- ・ 木ならではのやすらぎとぬくもりを五感で感じられる空間を創出し、生産性の向上等、木造オフィスビルだからこそ実現できる「**行きたくなるオフィス**」を目指す

▲（仮称）日本橋本町一丁目3番計画
外観 完成予想パース

2026年度竣工予定

今後のチャレンジ

三井不動産グループが北海道に保有する森林約5,000haの木材の一部を構造材および内装・仕上げ材に使用
「植える→育てる→使う」のサイクルによる“終わらない森”創りに取り組む



▲エントランスホール 完成予想パース

課題・連携協力の可能性

- ・ 竹中工務店と連携し、森林資源の循環を目指す企業として、お互いのノウハウを集結させ、本計画の検討を推進
- ・ 主要な構造部材には竹中工務店が開発した耐火集成材「燃エンウッド」を採用

関連情報

国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビル着工

「日本橋に森をつくる」「終わらない森」創りを通じた持続可能な社会の実現に貢献

https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/news/2024/0111_01/

（2024.1.11ニュースリリース）

33



ウッド・チェンジ・アクション

地方ビルダー・工務店を中心にCLT活用ネットワークを構築し、ノウハウの共有を図る。

また、工務店においても、一般的には鉄骨造とされているガレージハウスをCLTの高強度を活用したうえで、施工難易度も低くし、工務店での企画化・普及型へと導く。

完成時の実例公開に積極的に取り組んでいきつつオーナー向けに成功事例も伝えていく。



今後のチャレンジ

中層建築へのCLT活用による様々なメリットを発信していく。

下記実例にて、現場及び完成時の公開機会をもち中層建築へのCLT活用を推し進めるきっかけとしたい。現場においては、CLTの構造・強度としてのメリットを、完成時には現しによる視界的なメリット等を訴えたい。



課題・連携協力の可能性

CLT建築物は、以前は西日本中心であったが、現在は東日本案件の増加がみられる。その中での課題として、輸送コストを挙げる。
東日本でのマザーボード供給に今後期待したい。

関連情報

【HP】<https://nc-labo.jp/>

【Facebook】<https://www.facebook.com/ncIFAN/>

【X】https://x.com/Nippon_CLT_labo



ウッド・チェンジ・アクション

川上から川下をつなぐウッドコーディネーション

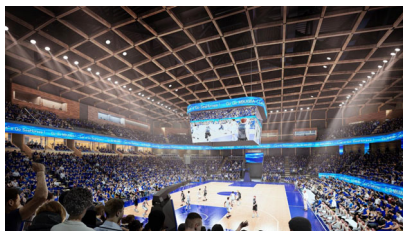
建築の木造木質化の社会実装をめざし、設計者に木材や地域材の特性や法制度を伝えるとともに、設計支援ツールの整備を推進。川上から川下をつなぎ、未来を担う木質社会の基盤づくりを進める。

「つな木」の地域連携の促進

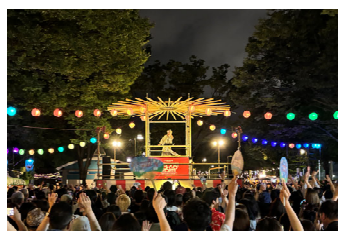
木質ユニット「つな木」を軸に、地域の事業者との協働を進める。木材利用の普及を図るとともに、地域循環型の仕組みづくりにも寄与する。

都市での普及啓発と循環

代々木公園など都市イベントで木の魅力を発信。熊本の祭りでは地域材を活かし地元の人々が手がける空間づくりを展開。



地域材設計事例 | 三河安城交流拠点



INSPIRE TOKYO 2025



熊本県・南小国町 新嘗祭

今後のチャレンジ

- ・ 森林資源の循環、国土の保全を目的とした
都市・建築の木質化の研究および実践
- ・ 中大規模における**木造・木質化建築の設計**
- ・ **木造・木質化のコンサルティング**
- ・ 川上・川中・川下をつなぐ**ウッドコーディネーション**
- ・ **木造木質設計支援ツールの整備**
- ・ 木質ユニット「つな木」の普及

課題・連携協力の可能性

- ・ サプライチェーン全体との共創・協働
- ・ 木造木質設計を担う人材の育成・支援

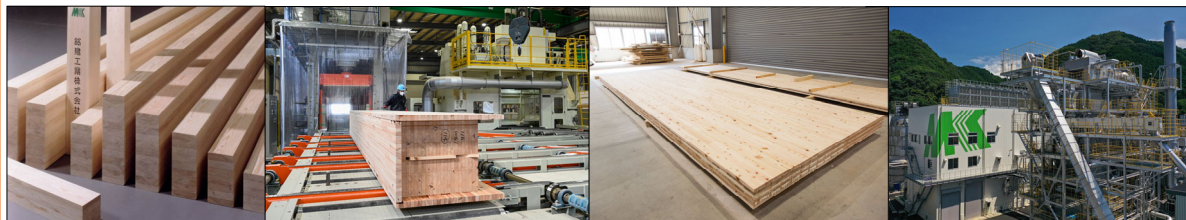
関連情報

Nikken Wood Lab : <https://www.nikken.co.jp/ja/insights/tsunagi.html>
つな木 : <https://tsunagi-wood.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

これまでも木材利用分野をより広げるため、集成材やCLTの製造・加工、非住宅木造の設計から施工まで手掛けてきた。木造ビルなど中・大規模建築で利用されるCLTの普及と超大型集成材の製造設備導入で、国産材利用と木造建築を推進する。



住宅用集成材
トップクラスのメーカー

超大型集成材設備
木造ビル等で使われる
巨大な木の柱を製造可能

CLTの製造・加工
国産材を活用し、
木造建築を推進

木質バイオマス発電設備
工場から出た木くずで発電

自社製品である集成材、CLTが使われた事務所兼ショールームが2020年に竣工。バイオマスも含めた木材利用を知ってもらう拠点に。



本社事務所（外観）
2020年竣工

本社事務所（内観）
集成材とCLTの事務所

本社事務所
小学生見学の様子

今後のチャレンジ

- ・非住宅用集成材とCLTの製造量アップ
- ・非住宅木造の市場化の取り組み

【木材利用促進月間等での取組】

- ・日本木工機械展（10/2～4）へのCLT・集成材展示物貸出し
- ・非住宅木造建築フェア関西展（10/30～31）への出展

課題・連携協力の可能性

CLTについて、設計者を中心により多くの人に知ってもらうための取り組み、使いやすい仕組み作りを推進する

ゼネコンや住宅会社との共同開発を積極的に進める

関連情報

銘建工業webサイト webカタログ (<https://www.meikenkogyo.com/catalog/>)
銘建工業オフィスツアー動画 (<https://www.youtube.com/watch?v=YIRaouT6j-4>)



ウッド・チェンジ・アクション

国産広葉樹材の利用促進に向けて

①国産広葉樹材の材質・加工特性に関するデータを整備
→国産の早生広葉樹や地域の小径広葉樹など、これまで用材として活用されてこなかった未活用広葉樹材を、国内の家具・内装材製造業において原料として有効活用するため、センダン、ホオノキ、ハンノキ、コナラの4樹種を対象として、材質、物理特性、加工特性、乾燥特性を明らかにし、それらのデータを公開。

②センダンのグレーディング基準の試案を作成

→国産広葉樹材の板材流通の拡大に向けて、センダンをモデルケースとして板材の供給者と需要者が取引の際に共通の品質基準として利用可能なグレーディング基準の試案を作成しその有効性を検証。



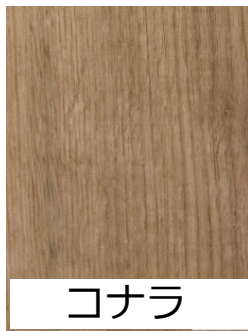
センダン



ホオノキ



ハンノキ



コナラ

今後のチャレンジ

用途に応じた木材製品の安定供給に向けて

大径材の加工・流通システムの開発、国産早生樹種等の利活用技術の開発

非住宅・中高層建築物等への利用拡大に向けて

CLTの利活用技術や新たな木質材料の開発、木質材料・木質構造の性能維持管理技術の高度化、木材ならではの快適性・健康機能・環境優位性の創出

【木材利用促進月間等での取組】

・公開講演会「2050年の森：人口減少社会において森林の果たす役割とは」を開催
(10月15日（水）13時30分～ つくば市で開催)

課題・連携協力の可能性

- ・新規木質材料の製造技術の小規模実証
- ・新規木質材料およびそれらを用いた木質構造の実大性能の評価
- ・木質構造・木質空間の良さの科学的解明

関連情報

＜研究プロジェクト紹介＞ <https://www.ffpri.go.jp/research/project/sendan.html>

＜公開講演会＞ <https://www.ffpri.go.jp/event/2025/20251015ffprilec/index.html>



ウッド・チェンジ協議会の取組に関する資料は
林野庁ホームページにて御覧いただけます。
是非とも、御覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/wckyougikai.html>

